産業/工業炉の未利用熱削減に向けた 高強度高断熱性多孔質セラミックスの研究開発

プロジェクト名: 未利用熱エネルギーの革新的活用技術研究開発

プロジェクト実施者: 美濃窯業株式会社

国立研究開発法人産業技術研究所

プロジェクト実施期間: 2015年4月~202年3月





美濃窯業株式会社

設立:1918(大正7)年

資本金:8億7700万円

上場取引所:名証2部

本社:岐阜県瑞浪市

本社事務所:愛知県名古屋市

従業員数:264名(2021年3月)

耐火物の製造・販売・施工を 中心に、焼成炉および 付帯品の設計・製作・施工・ 販売などを幅広く手がけて います

耐火物・セラミックス事業



Refractories



Construction



Kiln Maintenance



Advanced Ceramics



Batch type Kiln



Tunnel Kiln



Automatic Machine Microwave Kiln





Cerasand TM

Ceraresin UW TM



Cerasand HW-N TM



Toughcon ™



1-1.研究開発の背景



バッチ式高温用ガス焼成炉



半導体製造装置用セラミック部品の製造に使用する 焼成炉の使用温度は**1500°C以上**が一般的です



炉内の加熱に大量の 燃料(エネルギー)を使用します

さらに...

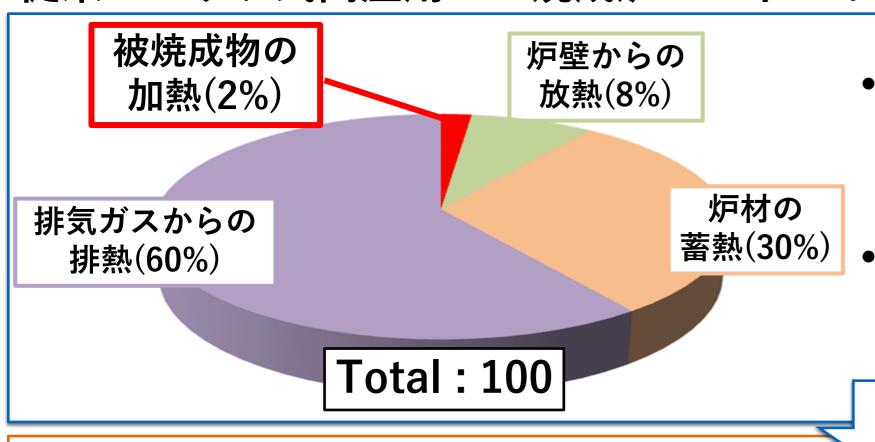
炉壁からの放熱、排気ガスからの排熱等 使用されない熱エネルギーが存在します

操業中焼成炉のサーモグラフィ写真



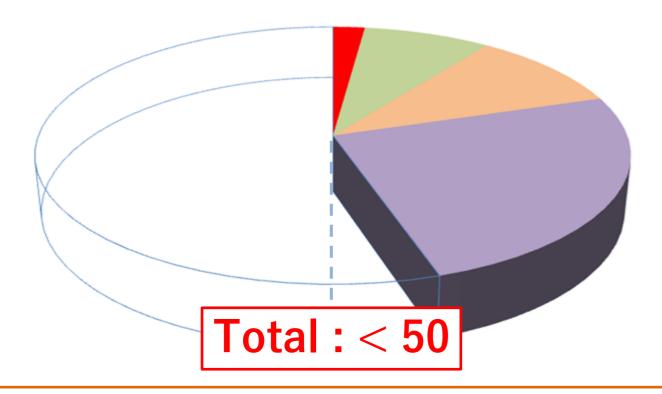
1-2.研究開発の目的、目標

従来のバッチ式高温用ガス焼成炉のエネルギー収支試算(使用温度1500°C)



- ・ 被焼成物の加熱に使用される エネルギーはわずか**2%**です
- 98%のエネルギーが廃棄されています

田中洋介, 松岡鮎美:セラミックス, 49 [8] 643-647 (2014)

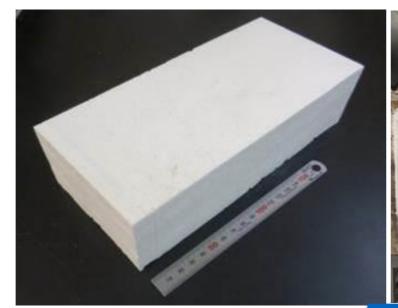


産業/工業炉から

炉壁からの放熱や炉材の蓄熱の削減、 **排気ガスからの排熱**を回収することにより、 従来と比較して**50%以上の排熱削減**を達成 することが目標です

(NEDO 1-2.研究開発の目的、目標

高断熱および高効率熱回収技術の開発で高エネルギー効率産業/工業炉の開発を目指します





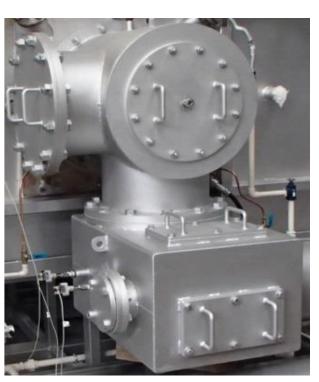
1.高強度高断熱性 多孔質セラミックス



2.高耐熱性 高効率熱交換器



高エネルギー効率産業/工業炉



3.高効率バーナー



2-1.研究開発体制

- [1] 熱マネージメントシステムの開発 ※本テーマ終了
- [2] 高強度高断熱性多孔質セラミックスの開発 ※継続中
- [3] 新規蓄熱材料の開発 ※本テーマ終了
- [4] 耐高温高効率熱交換器の開発 ※本テーマ終了
- [5] 高効率産業/工業炉における検証 ※継続中

美濃窯業(株)

- 技術研究所 [2]、[3]
- プラント部 [1]、[4]、[5]

共同提案

(国研)産業技術総合研究所

- ・中部センター(名古屋市) [2]
- ・北海道センター(札幌市) [2]

[再委託] (国)名古屋大学

• 北研究室 [1]、[3]

[再委託] (国)名古屋大学

· 小林研究室 [3]



2-2.研究開発内容

既存高温用断熱材

ファイバー断熱材

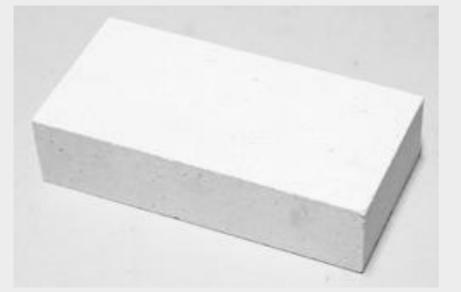




引用:日本高温断熱ウール工業会HP

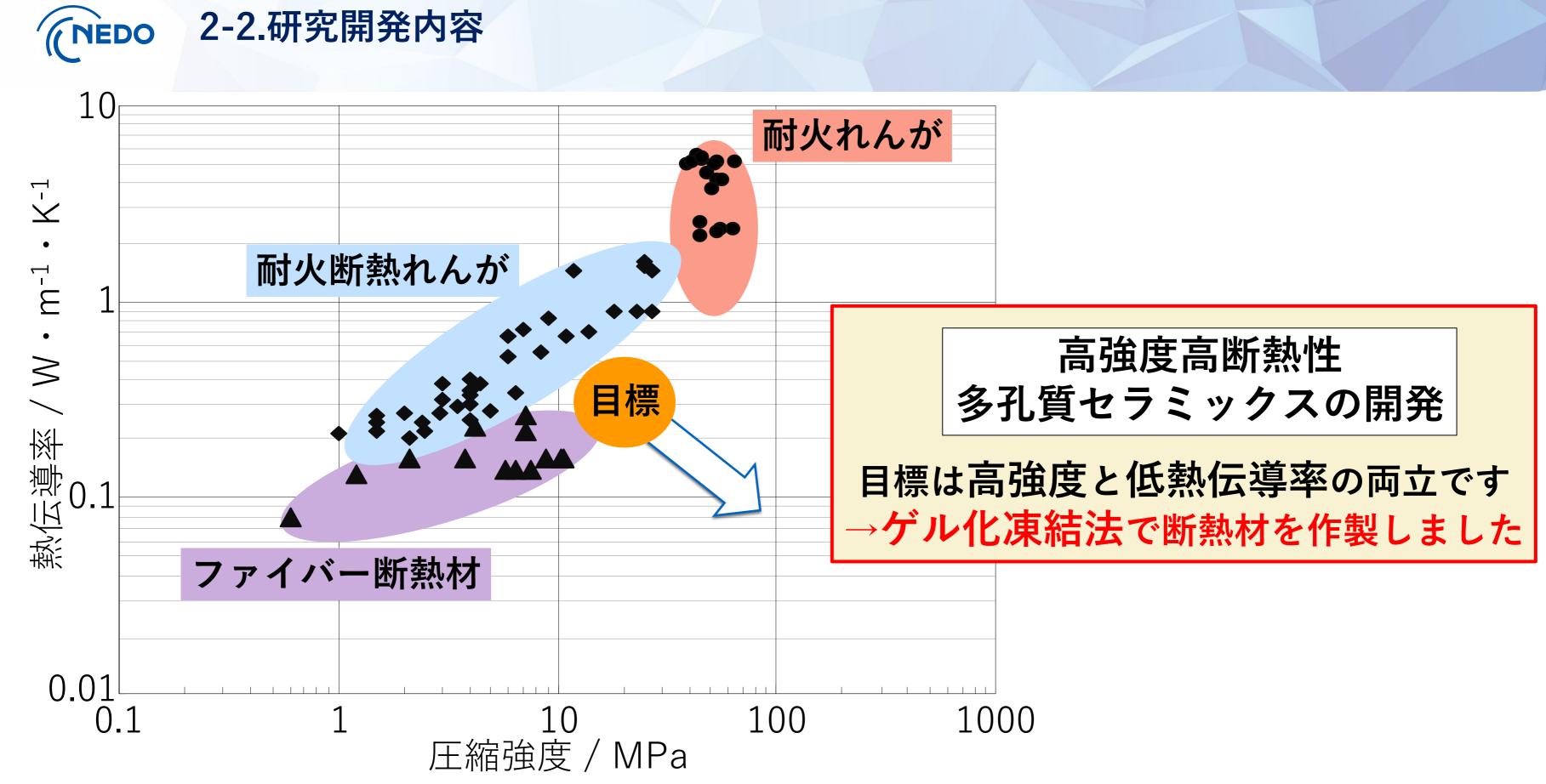
- ・軽量、高断熱、フレキシブル等の特徴を 有します
- ・低強度のため荷重負荷が高い環境での 使用が困難です
- ・継続使用により断熱材組織が劣化し、 焼成物を汚染する可能性があります

耐火断熱れんが



高アルミナ質断熱れんが

- ・高強度、高耐熱の特徴を有します
- ・低断熱で省エネ効果が低いです
- ・原料に有機系造孔剤を使用する場合、 製造時に温室効果ガスが発生します

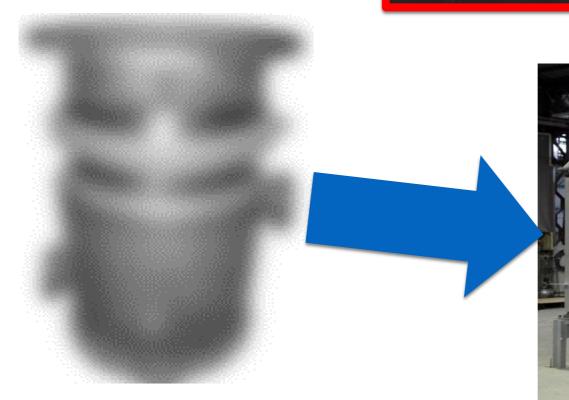


既存断熱材の熱伝導率/圧縮強度相関性及び開発断熱材目標

高断熱および高効率熱回収技術の開発で高エネルギー効率産業/工業炉の開発を目指します



1.高強度高断熱性 多孔質セラミックス

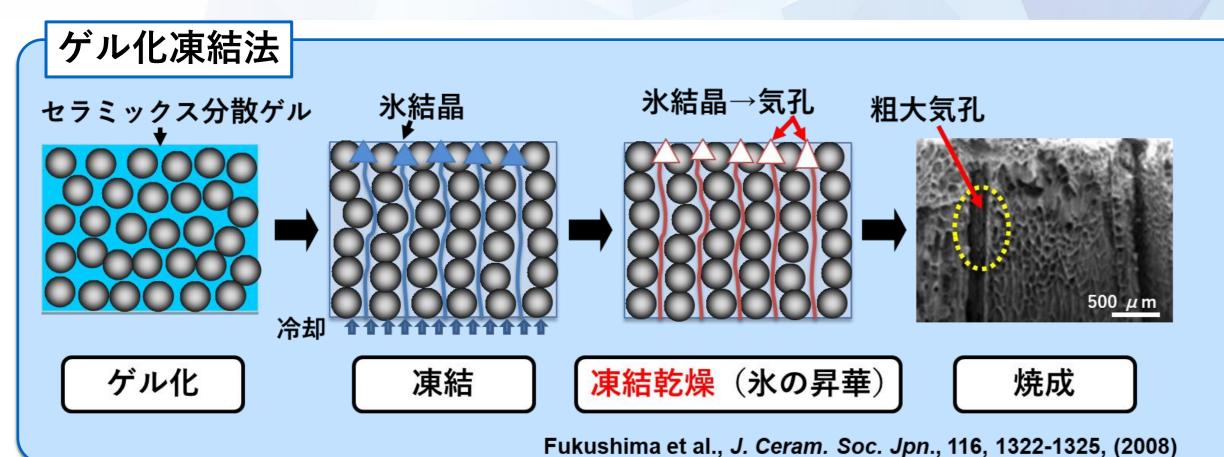






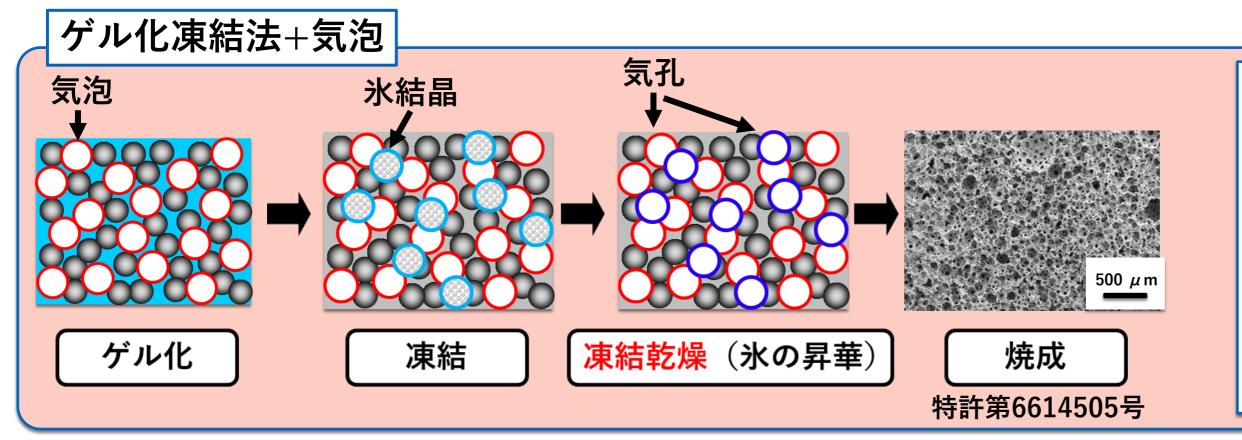






実用化に向けた課題

- ・高含水により乾燥に時間を 要します
- ・粗大気孔(氷結晶)が発生し構造が不均一になります

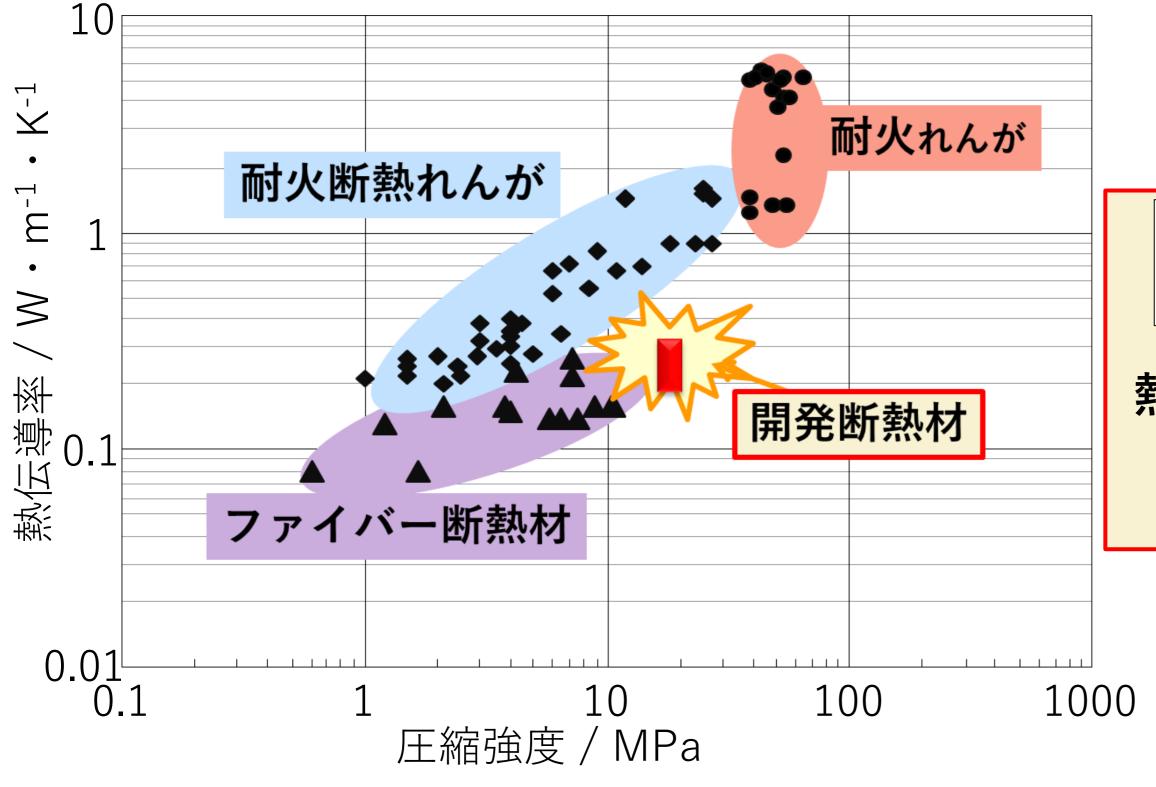


改善方法の検討

- ・水分の一部を気泡に置換する ことで乾燥時間の短縮が 可能となりました
- ・気泡添加により粗大気孔の 発生を抑制し、均一な構造を 有します



開発断熱材特性評価



断熱材特性 プロジェクト中間目標値

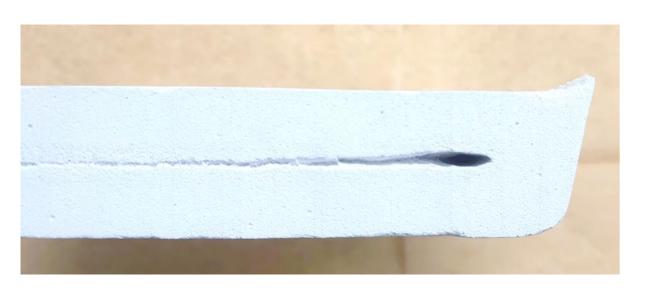
熱伝導率:0.25 W・m⁻¹・K⁻¹

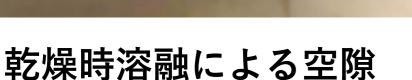
圧縮強度:10MPa

を達成しました



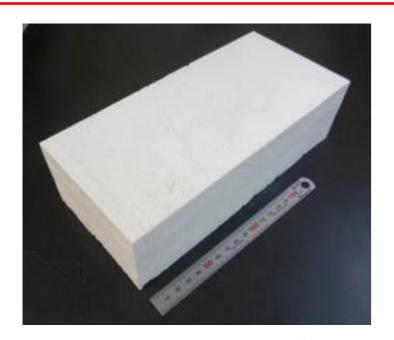
断熱材の大型化、量産化の検討



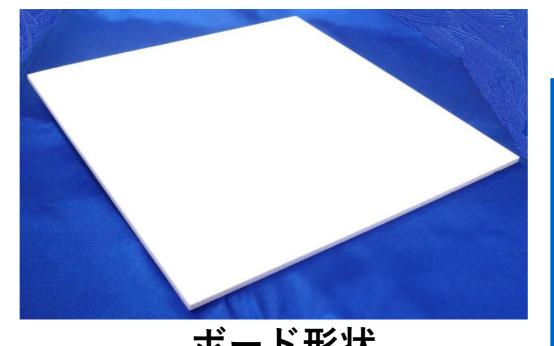




焼成時に亀裂発生した開発断熱材



並形れんが形状 230×114×t65mm



ボード形状 300×300×t5mm

乾燥、焼成条件の最適化で 大型のボード形状も作製可能です 輻射加熱による乾燥時間短縮で 並形れんが形状断熱材量産技術を 確立しました

乾燥時に溶融、

焼成時に亀裂が発生します

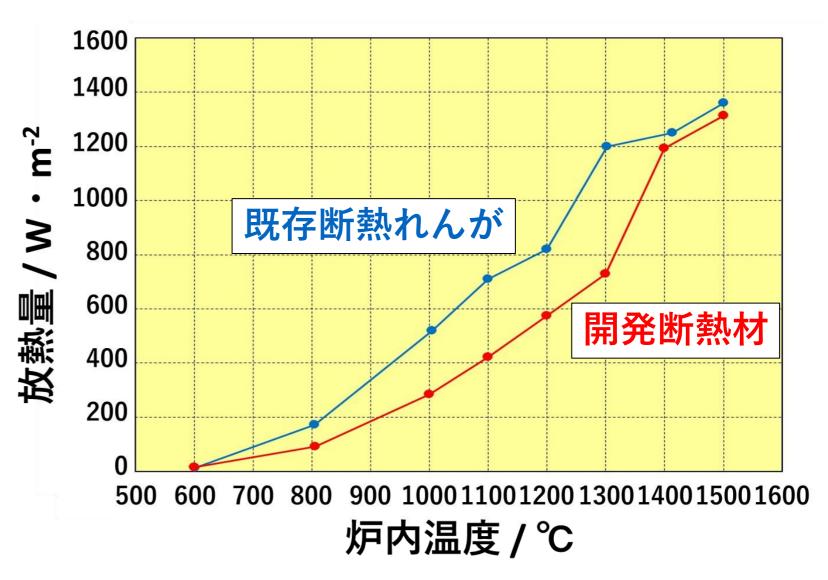
大型化の課題



開発断熱材特性評価



検証用ガス炉扉 (開発断熱材を一部施工)



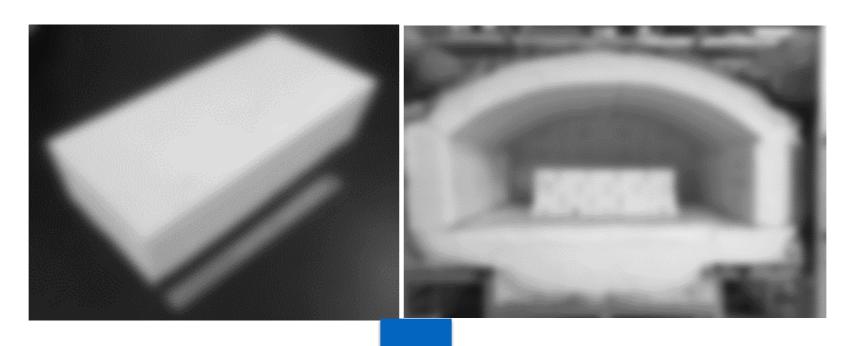
既存断熱れんが、開発断熱材を用いた 検証用ガス炉加熱実験での炉体表面放熱量の比較



高断熱および高効率熱回収技術の開発で高エネルギー効率産業/工業炉の開発を目指します

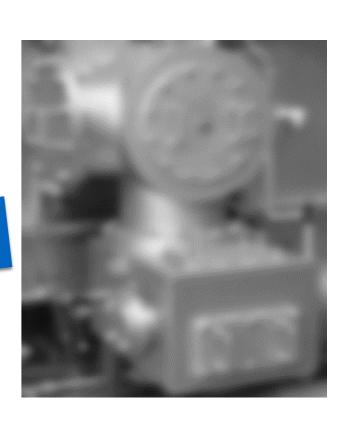


2.高耐熱性 高効率熱交換器





高エネルギー効率産業/工業炉





耐高温高効率熱交換器の開発

既存熱交換器の一般的な仕様

金属ケーシング + 金属ライニング

- ·使用可能温度:~1000°℃
- · 高熱回収効率(15-20%)

金属ケーシング + 耐火材料ライニング

- ・使用可能温度:1000°C~
- 低熱回収効率(5-7%)

開発耐高温高効率熱交換器

特殊耐火物 $\sim \Phi 600$ mm

L1500mm

特許 第5810237号

- 耐熱性向上
- ・高熱伝導率

放熱気体OUT 受熱気体OUT 多筒管構造 受熱気体 IN

放熱気体 IN

・受熱面積増による 熱交換効率向上

2重筒構造

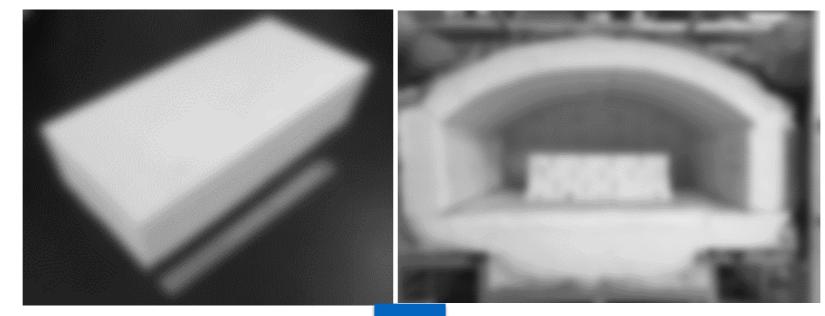
·耐熱性向上

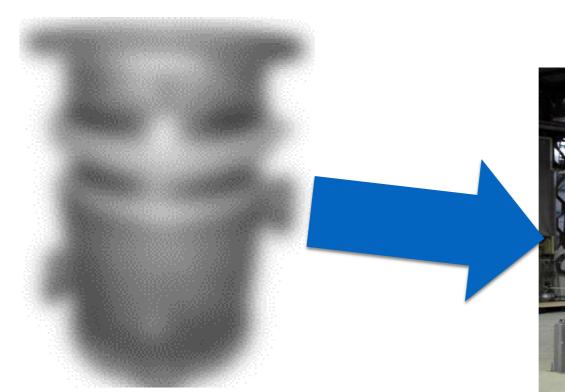
	使用温度	熱回収効率
既存熱交換器	1500°C	5~7%
開発品	1300°C	約24%
	1500°C	約23%

約3倍以上の熱回収効率を 実現しました



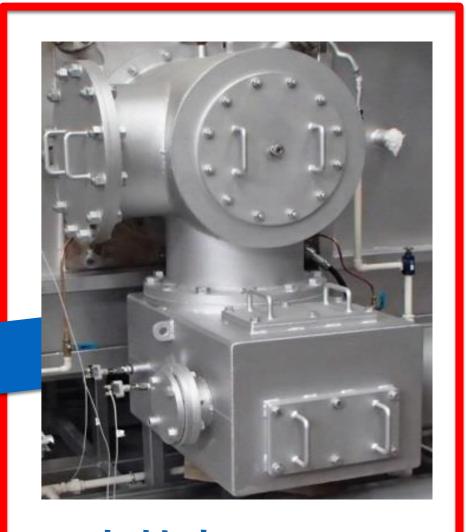
高断熱および高効率熱回収技術の開発で高エネルギー効率産業/工業炉の開発を目指します







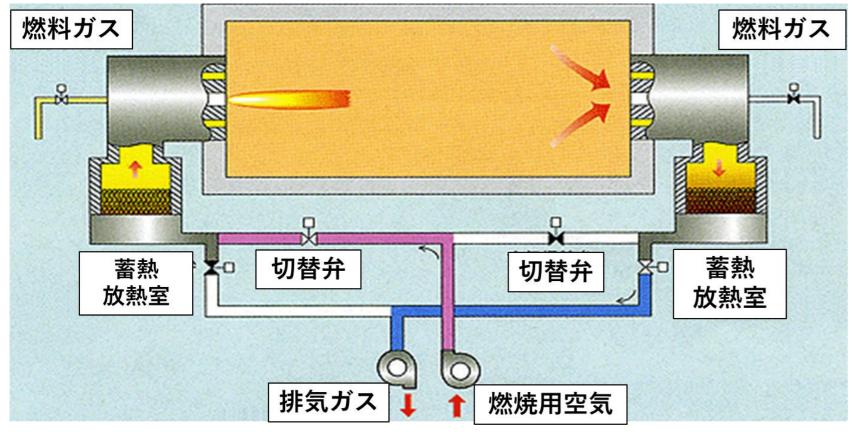
高エネルギー効率産業/工業炉



3.高効率バーナー



高効率バーナーの開発

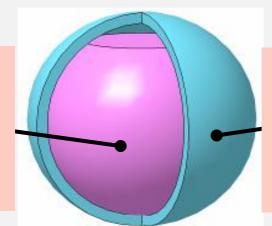


リジェネレイティブバーナー概略図

コアに金属、シェルにセラミックスの コアシェル型蓄熱体を開発しました

コア:金属

- ・高熱容量(潜熱)
- · 熱交換速度大 (高熱伝導率)



シェル:セラミックス

- ・高強度、高耐熱
- ・溶融塩や金属に対する高耐食性

セラミックスで作製された既存の**顕熱蓄熱体**は 高温で使用可能ですが

- →**低熱伝導率**のため入熱放熱速度が低いです
- →**低熱容量**のため**大型蓄熱室の設置が必要**で、 設置スペースの制約上、使用できないユーザー がいます



入熱放熱速度が高く高熱容量な 新規蓄熱体を試作しました



コアシェル型蓄熱体

- ・約1000°Cの排気ガスから 熱を回収、放熱が可能です
- ・セラミック蓄熱体に比べ入熱放熱速度約2倍実現しました

特開2019-137819

排熱削減50%の実証試験

→各要素技術を組み合わせた工業炉の排熱削減50%の実証試験を進めています

他分野への展開

→セラミック製造分野より市場規模の大きなガラス、セメント工業や 鉄鋼分野参入へ不可欠な断熱材の高強度化、低コスト化技術を開発中です また、開発した蓄熱材料技術の適用可能性を検討します

RCF(リフラクトリーセラミックファイバー)代替材料としての展開

→リフラクトリーセラミックファイバーとこれを含む製剤その他の物を製造し、または取り扱う業務について、「特定化学物質障害予防規則」の「管理第2類物質」と同様に、作業環境測定の実施、局所排気装置の設置などの事業者に対する規制が施行されました(H27年11月厚生労働省)

ファイバー系断熱材の代替品需要が高まっています 開発断熱材はRCF代替としての可能性を秘めており、実用化されれば 大きな波及効果が見込まれます この成果は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の委託業務の結果得られたものです